

戦評用紙

第 1 試合 Aコート

東京都ミニバスケットボール連盟 広報委員会

第33回東京都ミニバスケットボール優勝大会	開催日 平成22年9月23日(木)	会場 有明スポーツセンター
男子・女子	対戦名 光華ミニバスケットボールクラブ VS	高松ミニバス

第1クォーター

開始早々は両チームとも硬さが見られ、リズムがつかめず静かな立ち上がり。高松 のポストプレイから高さを活かして仕掛けるも、光華のディフェンスの頑張りでなかなか突破口がつかめない。一進一退の流れが続くも、光華 のミドルシュートが決まり1Q終了。

(6 — 8)

第2クォーター

2Qに入り追い着きたい高松は のドライブ、 のポストプレイで激しい攻めを見せるが、連続して得点をあげられず、次第にリバンドを光華に支配されてしまう。光華は の連続ドライブで得点する。光華が逆転して前半が終了。

(8 — 4)

第3クォーター

後半開始早々突き放しにかかりたい光華はオールコートディフェンスで守る。しかし高松も必死にボールをつなぎ攻めあがって行く。ルーズボール・リバンドを高松が粘り強く支配するものの、互角の展開が続く中、相手のオフェンスミスについて高松が速攻を出し得点を決め、高松3点リードで3Qが終了。

(3 — 8)

第4クォーター

なんとか追い着きたい光華は必死のディフェンスを仕掛ける。高松はその守りに対して攻め手が無い時間が過ぎていった。一方光華も今一歩決め手がなく両チーム無得点が続いた。均衡を破ったのは光華 のゴール下シュートで高松のファールを誘い、カウントワンスローを決め光華が逆点する。その後お互い攻め合い同点となり、残り4秒高松 のジャンプシュートが決まり高松リード。ここで光華はタイムアウトを請求。光華ボールで再開し最後の望みをかけたがバイオレーションを犯す。残り1.3秒で高松ボールとなりそのままキープして高松が勝利。決勝リーグにふさわしい好ゲームだった。

(7 — 6)

チーム名 得点

光 華 24

得点 チーム名

26 高 松

記入者名

水野秀行

所属

南台ミニバス

戦評用紙

第 1 試合 Bコート

東京都ミニバスケットボール連盟 広報委員会

第33回東京都ミニバスケットボール優勝大会		開催日 平成22年9月23日(木)	会場 有明スポーツセンター
男子・女子	対戦名 清瀬バスケットボールクラブ VS 弥生第二スポーツ少年団青空クラブ		

第1クォーター

清瀬2-1-2のゾーン、弥生第二はオールコートマンツーマン。清瀬はセンターを中心に動きの良い守りをする
が、弥生第二は、 がオフェンスリバウンドをがんばり、ドライブやゴール下で加点していく。清瀬はパス
は廻るが、中の へのパスをカットされ速攻で返され得点される。清瀬 はリバウンドを頑張るが、ファール
がかさむ。残3:12、清瀬0-13 弥生第二で清瀬のタイムアウト。直後、清瀬はプレス気味に当たりだし、
を起点に攻める。しかしシュートへのファールも増える。弥生第二は正確なフリースローで加点していく。
残30秒、清瀬 が4つ目のファール。タイムアップ直前に、清瀬 のミドルシュートが決まる。

(8 — 21)

第2クォーター

清瀬ボールでスタート。清瀬は1-2-2の広いゾーン、弥生第二はオールコートマンツーマン。弥生第二はボール
ラインを意識したダブルチームを仕掛け、ボールを取りにいく。清瀬はフォワードを中心に攻め、オフェン
スリバウンドも が頑張るがアウトレットパスを狙われる。弥生第二はカットからの速攻、速いパス廻しから
のミドルシュートで攻める。残3分から清瀬はゾーンプレスで当たりだす。残2分で清瀬12-29。清瀬の
プレスに対し、弥生第二はコートを広く使い、ロングパスで攻めるが、清瀬のプレスは戻りが早く、点差は広
がらない。清瀬 のゴール下で前半終了。清瀬18-31 弥生第二。

(10 — 10)

第3クォーター

弥生第二ボールでスタート。清瀬は1-2-2の広いゾーン、弥生第二はオールコートマンツーマン。弥生第二はオ
フェンスを広くセットし、早いパス廻しからミドルシュートを打つ。しかし の揃った清瀬のゴール下の壁
は高く、オフェンスリバウンドも取られる。なかなか点が入らず残2分で清瀬22-33。大きなゴール下
に対し、弥生第二はベースラインから当たりを強くし、 を中心に攻めるが、ファールも増える。清瀬は
のコンビプレーで追い上げるが、残1:29、清瀬 が痛恨のファールアウト。一気に楽になったゴール下
を弥生第二 が攻め、ディフェンスもさらにきつくなり、カットからの速攻が決まる。清瀬は ががんば
るが、弥生第二のカットからの速攻が続いた。清瀬24-42 弥生第二。

(6 — 10)

第4クォーター

弥生第二ボールでスタート。ディフェンスは共に第3クォーターと同じ。弥生第二はファールが増えるが、プ
レスを全く弱めない。清瀬は がボールを良く運び、速い攻めからミドルシュートを打つがなかなか決まらず、
パス廻しからの へのパスも入らない。清瀬 はリバウンドによく跳ぶが3Qと違い、一人ではなかなか取れ
ない。弥生第二は速いパス廻しから、前が空いたらシュート、当たってきたらドライブと、攻めが多彩。残2
分16秒、清瀬24-48で弥生第二がタイムアウト。しかしメンバーの交代はなく、再開後、清瀬も弥生第
二も、スピードが全く落ちず、速い展開が続く。残5秒、清瀬 のポストプレーからのシュートが決まり、清
瀬28-52でゲームセット。弥生第二が1勝をあげた。両チームとも最後まで走りぬいた好ゲームだった

(4 — 10)

チーム名 得点

清瀬 28

得点 チーム名

52 弥生第二

記入者名

平林 昭二

所属

アンリミテツズ

戦評用紙

第 2 試合 Aコート

東京都ミニバスケボール連盟 広報委員会

第33回東京都ミニバスケボール優勝大会		開催日 平成22年9月23日(木)	会場 有明スポーツセンター	
男子	女子	対戦名	深沢ラビッツ	VS 清瀬バスケットボールクラブ

第1クォーター

深沢は長身選手を活かした2-1-2のゾーンディフェンス。清瀬はオールコートマンツーマン。深沢は の高さを活かしたポストプレイから、ゴール下のシュートを決めていく。清瀬は のアウトサイドシュートが決まり逆転する。清瀬 がしっかり守り、深沢 を抑え始め追加点を許さない。守りの堅い清瀬が のドライブインで得点し、ダブルスコアで1Q終了。

(6 — 12)

第2クォーター

お互いディフェンスは1Qと同じ。序盤深沢 のオフェンスリバンドからシュートが決まるも、その後思うようにボールが繋がらない攻めが続いた。対して清瀬はアウトサイドシュートを多発し、 のシュートが面白いように決まっていく。残り3分48秒で深沢がタイムアウト。タイムアウト後深沢は のレイアップ のゴール下が決まる。しかし清瀬も のシュートが決まり12-30清瀬18点リードで前半が終了。

(6 — 18)

第3クォーター

前半同様に清瀬はアウトサイドシュートで攻めて が確実に決めていく。中盤深沢は清瀬のアウトサイドシュートに対してシュートチェックをしっかりやり始め、リバンドボールからの速い攻めで が得点し、追いつがるも清瀬も確実に得点していき差はつまずらず3Qが終了。

(11 — 18)

第4クォーター

4Qもお互い同じディフェンスで守る。清瀬は深沢の必死な守りに対して、確実なアウトサイドシュートで得点を重ねていく。残り2分14秒で深沢がタイムアウト。タイムアウト後、深沢はオールコートのゾーンプレスにディフェンスを変え応戦するも流れは変わらずダブルスコアで試合終了。確実性の高いアウトサイドシュートを決め終始攻めた清瀬に対して、深沢は今一步高さを活かせなかった。ミスマッチな相手に対して清瀬 のディフェンスは光るものを感じられた。

(6 — 10)

チーム名	得点	<div style="font-size: 4em; vertical-align: middle;">(</div> <div style="display: inline-block; vertical-align: middle;"> 12 — 30 17 — 28 </div> <div style="font-size: 4em; vertical-align: middle;">)</div>	得点	チーム名	記入者名
深沢ラビッツ	29		58	清瀬	福岡貴善
-----		-----			所属 ファイブスター エンジェルス

戦評用紙

第 2 試合 Bコート

東京都ミニバスケットボール連盟 広報委員会

第33回東京都ミニバスケットボール優勝大会	開催日 平成22年9月23日(木)	会場 有明スポーツセンター
男子 ・ 女子	対戦名 小柳ミニバスケットボールクラブ VS 大和田ミニバスケットボールクラブ	

第1クォーター

滑り出しは両チームとも硬さが目立ち、大和田のフリースローが先制点となる。ディフェンスは両チームともゾーンディフェンス(2-1-2)。大和田のディフェンスは上二人がハーフラインを超えた大きなゾーンとなっていた。残り3分31秒、大和田がタイムアウト。どちらも攻めきれない場面(2-1)で、ここから大和田がの高さを活かしゴール下でのファールを誘い、小柳の4ファール・フリースローにより加点していく。小柳はフリースローと、のロングシュートにとどまる。

(4 — 11)

第2クォーター

小柳のボールでスタート。ハーフライン付近でボールをゆっくりコントロールする独特の攻撃で、1クォーターと違いボールを廻し始める。小柳のドライブがファールを誘い、のロングシュートが決まって勢いづく。残り2分20秒、同点に追いつくとオールコート・ゾーンプレスにディフェンス切り替え一気に逆転。大和田はリバウンドをとれずに1ゴールにとどまる。

(15 — 2)

第3クォーター

両チームともディフェンスは、オールコートプレス。大和田がオフェンスリバウンドを取るも、小柳は簡単にシュートを打たせずなかなかシュートが決まらない。大和田はプレスからの攻撃で追い上げるも、小柳はの速攻のミドルで対応。大和田は守りを強化した為、ファールが多くなり、フリースローを与えてしまった。ただ大和田のオフェンスリバウンド、ディフェンスリバウンドとスタミナには驚かされた。

(8 — 10)

第4クォーター

4点ビハインドで追いかける大和田はプレスの当たりを強化する。対する小柳は速攻、のドライブ、のポストプレーで対応するが。残り2:33ついに大和田がプレスからのターンオーバー、のリバウンドからのシュートで、同点、のドライブで35-37と逆転。大和田は残り1:54、が5ファールで退場。そのタイミングでタイムアウトを取る。追いつかれて焦りの見えた小柳に対し、着実に加点した大和田がこの試合を制した。

(8 — 18)

チーム名 得点

小柳 35

得点 チーム名

41 大和田

記入者名

江川康樹

所属

MBCリトルブルズ

戦評用紙

第3試合 Aコート

東京都ミニバスケットボール連盟 広報委員会

第33回東京都ミニバスケットボール優勝大会	開催日 平成22年9月23日(木)	会場 有明スポーツセンター
男子・女子	対戦名 光華ミニバスケットボールクラブ VS	清瀬バスケットボールクラブ

第1クォーター

両チーム共に小柄なメンバーで試合開始。その中でも大きめな清瀬 に対して光華はどのように戦っていくかがポイントになりそうな展開で試合は動き出した。ディフェンスはお互いにマンツーマン。あたりの激しいディフェンスからターンオーバーが続く中先制したのは清瀬。速い展開から逆サイドにパスを出し が得点。光華も が決めて応戦する。3分経過したところから、清瀬は を中心にパス廻しをしてオフェンスのいい流れを作り得点を重ねる。光華は粘り強く守り、攻めに転じるが思うようにシュートまで到達出来ず1Q終了。

(3 — 6)

第2クォーター

清瀬ボールで開始。そのまま清瀬 がドライブを仕掛けファールを誘いバスケットワンスローも決める。清瀬は終始 にボールを集めて多彩なオフェンスを展開する。光華はセンタープレイヤーを効果的に活かし、早いパス廻しからのドライブで追い上げる。清瀬は のドライブ、 のロングシュートで小刻みに得点を上げる。光華も粘りを見せ均衡した流れで2Q終了。

(9 — 12)

第3クォーター

ベストメンバーとなる3Qは上背では清瀬に少々分があった。お互い激しい攻防を展開しターンオーバーが続く。開始4分間得点が入らない展開の中、清瀬が の素早い動きで速攻を決めた。このプレイ以降攻守の流れが清瀬に傾いた。

(2 — 4)

第4クォーター

最終Qは開始早々清瀬は のハイポストからのパスを受け がアウトサイドシュートを決める。光華は引き続き清瀬の堅い守りを攻めきることが出来ない。対照的に清瀬は光華の守りをかいくぐり のドライブ、 のポストプレイと確実に得点を重ねていく。光華は3分過ぎに が5分過ぎに がファールアウト。粘り強く守る流れも断ち切れ、清瀬 にボールコントロールされ試合終了。光華は1試合目の高松戦の1ゴール差負けを引きずったままこの試合に臨んでしまった感があった。

(0 — 14)

チーム名 得点

光華 14

得点 チーム名

36 清瀬

記入者名

江森 渉

所属

大泉クローバース

戦評用紙

第 3 試合 Bコート

東京都ミニバスケットボール連盟 広報委員会

第33回東京都ミニバスケットボール優勝大会		開催日 平成22年9月23日(木)	会場 有明スポーツセンター
男子・女子	対戦名	高松ミニバス	VS 弥生第二スポーツクラブ青空少年団

第1クォーター

弥生第二のドリブルシュートから試合が始まる。一進一退で淡々と試合は進む。オールコートの弥生第二に対して、ハーフからのゾーンで守る高松も一歩も譲らず、最後の数秒、弥生第二のミドルシュートが決まり一本差で終了。

(10 — 12)

第2クォーター

弥生第二のゴール下のディフェンスに苦しみ、高松の大型が2点しか決められず、のフリースローを含む5点で計7点に対して、弥生第二の4本のドリブルシュートに1本のフリースロー、計9点を入れたのは立派である。小柄な編成だがチームプレーに徹して、ほとんどの選手が得点を入れたのは大きい。

(7 — 14)

第3クォーター

弥生第二は高松の3-2ゾーンに苦しむ。パスミスも目立ち、高松がジリジリと迫る。大型のとが頑張り、このクォーターは高松ペースで終わる。よくをいえば、高松のシュート率が上がればこのチームはまだ成長する。もっと楽なゲーム展開ができる。

(12 — 6)

第4クォーター

弥生第二は高松のゾーンに苦しみ、外から打てば、高松にリバウンドを取られ、相変わらず苦しい展開が続く。残り3分30秒でついに高松が逆転シュート。しかし弥生第二が即2本決め、再逆転。残り1分、お互いのシュートミス、トラベリングが続くが、プレッシャーの中でコート全面を使って2点差を逃げ切った弥生第二に軍配が上がる。

(9 — 8)

チーム名 得点

高松 38

得点 チーム名

40 弥生第二

記入者名

塚本 篤

所属

日野サンズ

戦評用紙

第 4 試合 Aコート

東京都ミニバスケットボール連盟 広報委員会

第33回東京都ミニバスケットボール優勝大会		開催日 平成22年9月23日(木)	会場 有明スポーツセンター
男子・ 女子	対戦名	深沢ラビッツ	VS 小柳ミニバスケットボールクラブ

第1クォーター

お互いゾーンディフェンスで試合開始。
 小柳は を中心にオフェンスを展開していくがなかなか思うような流れがつかめない。
 深沢は長身を活かした のインサイドでのプレイで得点をあげていく。
 小柳はオフェンスリズムをつかめないまま1Qが終了した。

(12 — 4)

第2クォーター

このクォーター小柳はディフェンスをオールコートプレスに変え仕掛けに掛かった。
 リズムの出たディフェンスから流れのいいオフェンスに持ち込み、 のミドルシュート、 の連続得点で
 2点差まで追いつける。
 攻め込まれていた感じの深沢は がインサイドプレイで頑張るも小柳の堅い守りに阻まれ得点出来ないまま
 2Qが終了。

(3 — 7)

第3クォーター

小柳はオールコートプレス、深沢はゾーンで3Q開始。
 深沢は2Q同様に小柳のオールコートプレスを思うように攻めきれない展開が続く。
 小柳はディフェンスからリズムをつかみ得点を重ねて一気に逆点に成功。
 深沢は のゴール下で応戦するも、小柳の のドライブ、 のミドルシュートが決まり振り切りにかかる。
 残り1分30秒で深沢は攻守の要の がファールアウトしてしまう。
 流れは一気に小柳に傾いた感じで3Q終了。

(6 — 23)

第4クォーター

なんとか反撃したい深沢は相変わらずの小柳のディフェンスを攻め切れない展開が続く。
 小柳はオフェンスでは緩急のあるプレイを展開し、自分達のリズムを継続していく。
 深沢も最後の粘りを見せ、 がインサイド・アウトサイドと攻めるが、
 3Qの流れのまま試合終了。

(6 — 4)

チーム名	得点	(得点	チーム名	記入者名
深沢ラビッツ	27		38	小柳	渡部 正
-----)	-----		所属
					武蔵村山ファイターズ

戦評用紙

第 4 試合 Bコート

東京都ミニバスケットボール連盟 広報委員会

第33回東京都ミニバスケットボール優勝大会	開催日 平成22年9月23日(木)	会場 有明スポーツセンター
男子 ・ 女子	対戦名 大和田ミニバスケットボール VS	清瀬バスケットボール

第1クォーター

開始10秒で大和田 がゴール下シュートを決める。高さで勝る大和田が ・ のゴール下シュートを決めて差を広げる。清瀬は のミドルシュートが入り反撃するが、大和田 のゴール下、 のドライブで加点。残り1分で清瀬 のミドルシュート、 のドライブインで得点を重ね17-7で大和田リードで第1Qを終了。

(17 — 7)

第2クォーター

清瀬が ドライブで得点し大和田を追撃。清瀬の厳しいディフェンスに大和田は苦しくなり得点が入らず。ベンチがタイムアウトを請求。タイムアウト終了後、大和田 がゴール下で得点をするがその後加点出来ず。清瀬は のミドルシュート、 の速攻、 のドライブインで連続得点を重ね6点差に迫る。大和田も の速攻で得点、30対22と大和田リードで前半終了。

(13 — 15)

第3クォーター

高さで勝る大和田に対して、清瀬 はリバウンドで頑張り膠着状態で始まる。開始2分台で大和田 ドライブイン、清瀬は ・ のミドルシュートで反撃する。大和田は を中心に高さを活かし、清瀬は ・ を中心にミドルシュートで追い上げる。得点差は中々縮まらず44対33で第3Q終了。

(14 — 11)

第4クォーター

開始早々大和田が から へのポストプレーで得点すると、続けて ・ のゴール下シュートで差を広げる。清瀬は のジャンプシュート、 のミドルシュートで得点を重ねるが、試合の流れは大和田へ傾く。高さを活かした のゴール下シュートで清瀬を突き放す。最後に清瀬は が見事なジャンプシュートを決めるが、ノータイム。23点差で大和田の勝利。体格・高さを徹底的に活かした大和田に対し、最後までディフェンスを頑張る清瀬と、印象に残ったゲームだった。

(18 — 6)

チーム名 得点

大和田 62

得点 チーム名

39 清瀬

記入者名

小島 一俊

所属

北フープ ステアズ MBC

戦評用紙

第 5 試合 Aコート

東京都ミニバスケットボール連盟 広報委員会

第33回東京都ミニバスケットボール優勝大会	開催日 平成22年9月23日(木)	会場 有明スポーツセンター
男子・女子	対戦名 弥生第二スポーツ少年団青空クラブ VS 光華ミニバスケットボールクラブ	

第1クォーター

トスアップは光華がキープしてスタート。
 弥生第二はオールコートマンツーマン、光華はゾーンで守る。
 先制したのは弥生第二のドライブイン。すかさず光華もがカウントワンスローを決める。
 中盤攻守交替するなか、弥生第二がバックシュートを決めると、光華のジャンプシュートで応戦する。
 その後一進一退の攻防が続き 11 - 9 弥生第二が2点リードして1Q終了。

(11 — 9)

第2クォーター

光華ボールでスタート。ディフェンス隊形はお互い1Qと同じ。
 弥生第二は小柄ながらしっかりとしたマンツーマンディフェンスを展開する。
 光華のドライブ・カウントワンスローでこのクォーターが動き出す。
 この後光華が果敢な攻撃で攻め上がる。のドライブ、のジャンプシュートと確実に得点を重ね、
 光華が得点差をつけて前半終了。

(2 — 15)

第3クォーター

弥生第二ボールで開始。
 このクォーター先制したのはのジャンプシュートで光華。
 一進一退の攻防の続く中、弥生第二はのフリースロー、のシュートで得点を重ねるも、
 光華ものジャンプシュート等が決まり3Qが終了。

(9 — 8)

第4クォーター

光華ボールで開始。
 お互い激しく守りあい得点が入らない時間が続いた。3分経過しお互い1ゴールずつ得点するも、
 どちらも自分達に流れを引き込めない感じの展開だった。
 2Qでつけた点差を守りきり、光華が勝利した。
 光華はリーグ戦1勝とし意地を見せた。
 この試合を落としたものの、弥生第二はリーグ戦1位となり1月の関東大会出場を決めた。

(12 — 10)

チーム名	得点	<div style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">(</div> <div style="display: inline-block; vertical-align: middle;"> 13 — 24 21 — 18 </div> <div style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">)</div>	得点	チーム名	記入者名
弥生第二	34		42	光華	小笠原 靖
-----					所属
					扇MAX

戦評用紙

第 5 試合 Bコート

東京都ミニバスケットボール連盟 広報委員会

第33回東京都ミニバスケットボール優勝大会		開催日 平成22年9月23日(木)	会場 有明スポーツセンター	
男子・女子	対戦名	高松ミニバス	VS	清瀬バスケットボールクラブ

第1クォーター

関東大会出場に残り1枚の切符を掛けた一戦。高松がジャンプボールを制して先行。続けてディフェンスからのパスカットから得点に繋げて連続得点でスタート。その後も高松は攻守にリズム良く展開し、12-2とリードを広げる。序盤は高松のペース。その後、清瀬も自分達のペースを掴み、徐々に得点差を詰めるが、高松4点リードで終了。
(14 — 10)

第2クォーター

清瀬ボールでスタートするが、高松がフリースローで先行。清瀬は高松を抑える。ボックス-1ゾーンでリズムを掴む。清瀬は が3連続得点で7点を挙げ、このクォーターの主導権を握る。その後高松は、自分達のリズムで試合を運ぶ事が出来ず、4ファール後はゾーンディフェンスに切り替えリズムを変えていくが、清瀬が2点リードで前半を終了。
(6 — 12)

第3クォーター

ベスト対決。清瀬ボールでスタートするが、両チームともボールが手につかずミスを連発。90秒間ノーゴール。その後清瀬 の連続得点でリードを広げる。一方高松は の得点から徐々にリズムを掴み、残り5秒でシュートを決め追いつがる。
(6 — 6)

第4クォーター

高松ボールでスタート。清瀬 の個人プレーで2連続得点でリード。その後高松も センターの得点からリズムを掴み3連続得点で残り3分19秒で同点に。追い付かれた清瀬はタイムアウトを取り、リズムの切り替えをするが高松は逆転に成功。その後、清瀬も意地をみせて粘って同点に追い付く。その後一進一退となるが、互いにディフェンスを頑張るで同点で終了。関東大会の切符は、延長戦での決着となった。
(12 — 10)

延長1

延長は清瀬ボールでスタート。延長に入っても清瀬 のシュートが決まって先行。その後は高松の が入れ返すという、両チームの軸が頑張るで互角の展開。その後も清瀬は が起点となり へつなぎ貴重な得点を挙げリードするが、終了間際に高松 がアウトサイドシュートを決めて譲らず、第一延長3分間では決着せずゲームは第二延長へともつれこむ。
(4 — 4)

延長2

第二延長3分間も清瀬ボールでスタート。清瀬 が第一延長同様に先制。その後両チームとも相手のゾーンディフェンスを崩せず、疲れもあってミスが連発するゲーム展開となる。清瀬の逃げ切りかと思えたが、高松は相手のミスに乗じて得点を挙げ同点となる。その後も両チーム決め手を欠いて得点にならず、第二延長でも決着がつかず第三延長に突入となる。
(2 — 2)

延長3

関東大会の切符を賭けた一戦は第三延長の3分間に入った。このクォーターは高松 が長身を利してゴール下シュートを決めて、延長突入後初めて清瀬をリードする。互いに緊張感の中で最後に粘りを見せたのは清瀬で、コートサイドの大応援団の後押しもあり同点・逆転のシュートを決め、念願の関東大会出場を決めた。まれにみる第三延長までの戦い。両チーム選手の体力・精神面、またベンチワークを問われるクォーターであったが、最後に清瀬が高松を上回り大接戦を制した。
(2 — 4)

チーム名	得点	得点	チーム名	記入者名
高松	46	20 — 22	清瀬	星光男
-----		18 — 16	-----	所属
		4 — 4		恩方ミニバス
		2 — 2		
		2 — 4		

戦評用紙

第 6 試合 Aコート

東京都ミニバスケットボール連盟 広報委員会

第33回東京都ミニバスケットボール優勝大会	開催日 平成22年9月23日(木)	会場 有明スポーツセンター
男子 ・ 女子	対戦名 大和田ミニバスケットボールクラブ VS	深沢ラビッツ

第1クォーター

大和田 2 - 1 - 2、深沢 2 - 3 とお互いゾーンディフェンスで始まる。
先制したのは大和田。 がバスケットワンスローを決める。その後も大和田は のミドルシュート、 のドライブ、 のポストプレイで得点を重ねる。開始3分深沢は得点を上げることができなかった。
10点差をつけられた深沢は徐々にオフェンスリズムが出てきて、 のミドルシュート のポストプレイで得点する。大和田 の高さを活かした、オフェンス、リバンドが目立った流れで終了。

(18 — 6)

第2クォーター

2Qも1Q同様なディフェンスでお互いに守る。
開始早々深沢 のミドルシュートが決まる。しかし大和田もすぐに がポストプレイで入れ返す。
攻守交替しながらお互いに攻め合うが、特に深沢はリングに嫌われ思うように得点に繋がらない。
残り4分深沢 のポストプレイで得点するも、大和田 のポストプレイ、 のジャンプシュートが決まり、
の連続得点も入り、大和田19点リードで前半が終了。

(13 — 6)

第3クォーター

開始早々深沢 がドライブインからのシュート、ミドルシュートを連続で決める。
大和田も を中心に得点を重ねて行き、深沢の粘りもあったが試合の流れは大和田ペースで展開されていた。
開始30秒で20点差となる。大和田の攻撃は止まらず36点差をつけて3Q終了。

(25 — 8)

第4クォーター

お互い最終クォーターもゾーンで守る。
大和田のペースは変わらず深沢も を中心に攻め得点するも、3Qまでの大きな点差は埋められずに、
ゲームが終了した。
大和田はリーグ戦1位となり、関東大会出場を決めた。

(24 — 12)

チーム名 得点

大和田 80

得点 チーム名

32 深沢ラビッツ

記入者名

佐々木 博人

所属

旭光ミニバス

戦評用紙

第 6 試合 Bコート

東京都ミニバスケットボール連盟 広報委員会

第33回東京都ミニバスケットボール優勝大会	開催日 平成22年9月23日(木)	会場 有明スポーツセンター
男子・ 女子	対戦名 清瀬ミニバスケットボール VS 小柳ミニバスケットボールクラブ	

第1クォーター

1勝1敗同士の関東開会出場がかかった一戦。
 清瀬が のロングシュートで先制。ゲームが動き出す。
 清瀬、小柳ともオールコートプレスでプレッシャーをかけるディフェンス。
 清瀬はアウトサイドからのロングシュートとドライブインからの攻め、一方の小柳はポストアップからインサイドを攻める。
 清瀬のシュートが良く決まり、清瀬の3点リードで1Qを終了。

(12 — 9)

第2クォーター

小柳は清瀬 にマンマークを付けるボックスワンディフェンス。
 1Q同様、清瀬はアウトサイドから、小柳はポストアップからの攻めを展開。
 一進一退の攻防が続く中、残り1分を切り、清瀬 がロングシュートを連続で決め突き放しにかかる。
 小柳は終了間際のゴール下シュートで2点を返すも5点差で前半を終了。

(11 — 9)

第3クォーター

両チームともオールコートプレスディフェンスでボールにプレッシャーをかける。
 清瀬は引き続きアウトサイドからの攻め、小柳は のポストアップから攻めを展開する。
 清瀬ボールからのオフェンスで がミドルシュートを決めると小柳はすかさず のドライブインから反撃。
 小柳ディフェンスがのプレッシャーが強まる中、小柳が の連続得点の後、 がポストアップから得点。
 3連続得点でついに同点に追い付く。

(10 — 15)

第4クォーター

両チームとも堅いディフェンスでボールにプレッシャーをかける中、無得点の時間が3分近く続く。
 均衡を破ったのは残り3：14小柳 のドライブインからのバスケットカウント。フリースローは落ちるものの がリバウンドから得点し突き放す。すかさず清瀬も のロングシュートで追い上げにかかる。
 残り52秒、清瀬が のドライブからのゴール下で2点差に追い上げた後、小柳がタイムアウトを請求。
 小柳ボールでゲーム再開後、残り25秒で清瀬がスチール。しかし得点に繋がらず、残り6秒でヘルドボールが小柳ボールとなり、そのまま試合終了。
 最後まで1ゴールを争う、関東大会出場がかかった試合に相応しい熱戦となった。

(6 — 8)

チーム名 得点

清瀬 39

得点 チーム名

41 小柳

記入者名

大南 幸寛

所属

東萩山小